



塩水選



密苗



ニラの種まき（ポット苗）

我が町農業の日常 No.4

— 春の農家風景：種まき —

稲作農家は、当然ですが春は必ず種まきから始まる。どの品種の米を、どの程度作付けするのかから逆算し、種まきを行う。また、金山野菜の代表格のニラの種まきも行われている。

※今期は、林業・農業・商業・工業を1年ずつ取り上げ、その日常を紹介していきます。次回からは商業になります。

もくじ

3月定例会	2~3P
予算特別委員会	4~7P
補正予算及び一部条例改正	8P
常任委員会報告	9P
一般質問	10~14P
議会の動き・その他研修報告	15P
2月臨時会	16P
5月臨時会	17P
町民の声・ギインコラム	18P

塩水選：塩水選（えんすいせん）は、良好な生育の望める充実した種を選別する選種法のひとつ。種を一定の比重（濃度）の食塩水に入れ、浮いたものを取り除き、沈んだものを種として採用することで、比重の大きな充実した種を選び出す方法。

密苗：（※「密播苗」等、呼び方が違う場合がある。）密苗とは、通常1箱100~150gの種（籾）を播くところを、1箱250~300gで播くことで大幅な省力化・低コスト化・労力軽減などを実現する技術。面積と苗箱の数にすると、通常10a 20枚程度の苗箱が必要なところ、この手法だと半分の10枚程度で植えることができるとのこと。ただし、専用の機材が必要となる。

ニラの種まきの様子：この写真は、ニラのポット苗の種まきの様子。播種機（写真）の右側からプラグ箱（苗箱）が入れられ、床土、種、かけ土の順で入れられる。プラグ箱には448個の穴が開いており、その小さな穴にコーティングされたニラの種を3個ずつ入れる。10aのニラを植えるのに、このポット苗が20枚程度必要とのこと。種まき後、2ヶ月程度ハウスで苗を管理し、その後、定植機で畑に植えられる。金山町のニラ生産額（令和2年度JA金山・活き粋き野菜倶楽部のみ）は、2億3000万円にも上り、町の一大産業になっている。

